

## 第6室 (R104) Part IV Moodle 版 TDAP3.0 の開発

中原 敬広 (株) eラーニングサービス

大友、中村および秋山が開発したテストデータ分析プログラム TDAP2.02 は、単体のツールとしての完成度は高い。しかし、eラーニングが普及し始めた現在、LMS の持つオンラインテスト機能を利用する場合には、いくつか改善すべき点が残っていた。秋山は、オープンソースソフトウェアの LMS である Moodle のプラグインとして `tdap` モジュールを開発し、受験データをエクスポートせずに、テストデータを分析し、その結果をアイテムバンクに登録できるように改善した。本発表では、これを最新版の Moodle 用に作り直し、さらに、1) 構成したテストのテスト情報関数をそのテストを構成するテストアイテムの項目情報関数とともに重ね合わせてグラフ表示することでテスト設計を補助する機能、2) 受験者シミュレータを使って受験結果を確認できるシミュレーション機能、3) テストアイテムに使用されている語彙の頻度レベル判定機能を持つアイテムエディタ : E-Edit、などを付加した。これにより、Windows 版 TDAP2.02 の持つ機能をすべて備え、かつ、新たに強力な補助機能を持たせることができ、客観的な測定ツールとしてのテストを適切に作成することが容易になった。

## 第6室 (R104) Part V

### 習熟度別クラス編成のための英語基礎力判定標準化テスト作成の試み

木村 哲夫 新潟青陵大学

大学に入学してくる学生の英語力が多様化していることから、英語の授業を習熟度別クラス編成で行う（あるいはその必要性を感じている）大学が増えてきている。学生の英語基礎力を判定に、英検や TOEIC などいわゆる資格試験や、英語力判定のために開発された様々なテストが利用されることも多いが、近年の I T 技術の進歩により、かつては個人レベルで行うことが技術的にも費用的にも考えられなかったテストデータを含む学習データの管理と分析が、安価にかつ容易に行えるようになってきた。本研究は、オープンソースウェアでありながらも充実した機能を持つ LMS として定評のある Moodle を使い、英語基礎力を判定するテストを作成・実施し、データを管理・分析し、標準化されたテストとして、習熟度別クラス編成のための基礎資料を提供する試みを紹介する。テスト項目としては独自のものと、英検の過去問題を使用許諾を得て利用した。データ分析手法としては、1パラメータと2パラメータのロジスティック・モデルの両方を試した。また、本研究のテストで得られた学習者の能力推定値と、他の外部テスト (TOEIC Bridge、CASEC) で得られたスコアとの相関分析も行い、本研究のテストの妥当性の検証も行った。